

デジさが

はじめに

旅行に行ったとき、「行くところがないねー。」と観光スポットめぐり(探し?)に途中で飽きてくる。「あとでSNSで写真送っておくね!」とスマートフォンやデジカメで撮った旅の思い出は、時間差でやってくる。そんな私の小さな旅のストレスから生まれた、スマートフォンを利用した観光コンテンツを、佐賀市を対象に提案したい。

1. 準備

まず、必要なのはスマートフォンである。旅行者は、スマートフォンを自分の携帯か、まち独自で貸し出したものを用い、GPS付き観光マップと各アイデアのアプリを搭載しておく。



必要に応じてガイドや、三脚の貸出、レンタサイクルと連携すれば、スマートフォンに慣れていない人や、少人数での旅行、電車での来訪者などに対応できる。

2. 八賢人のお・も・て・な・し



▲佐賀の八賢人おもてなし隊
出展: 佐賀の八賢人おもてなし隊HP
<http://sagahachikenjin.sagafan.jp/c20860.html>

私は大隈重信や江藤新平といった八賢人を佐賀の誇りであると思っているが、観光客のみならず、市民からの認知度も低い。そこで、「佐賀の八賢人おもてなし隊」や3DキャラなどをAR(拡張現実)化し、まちの中に八賢人をはめこみ、観光客をおもてなししていただく。そして、イベント情報や、見どころの紹介だけでなく、彼らの生い立ちや成功した経緯などを情報として取り入れる。バーチャルではあるものの、八賢人と写真が撮れたり、新しい体験の中で彼らや佐賀市のまちを知ることができる。



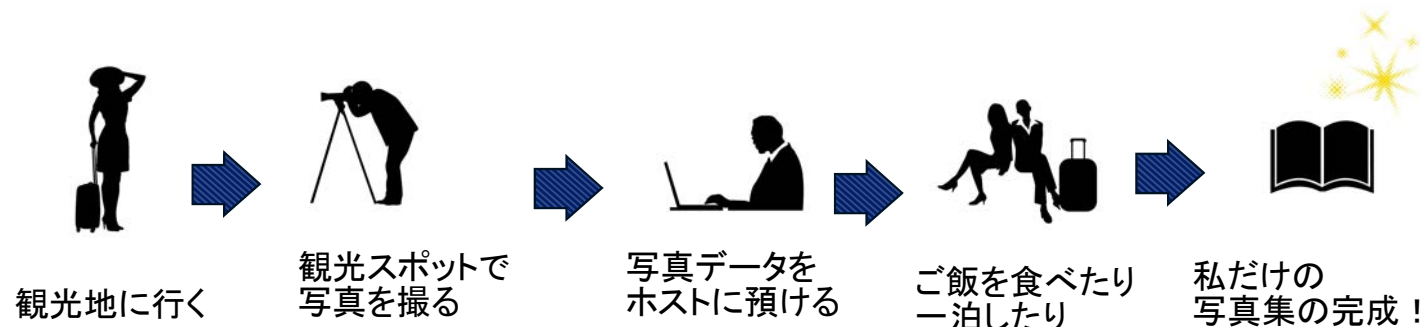
▲観光スポットなどの情報がわかる「すわなび」
出展: 長野県諏訪市HP
<http://www.city.suwa.lg.jp/www/index.jsp>



◀くまモンと写真が撮れる「くまフォト」
出展: 株式会社熊本放送HP
<http://rkk.jp/kumamon/>

3. 旅の思い出は“今ここ”で。

「フォトブック」をご存知だろうか。デザインやコメントを考え、一冊の写真集をつくるサービスなのだが、データのみで写真では味気ないため、マイブームとなっている。これを観光に活かした事業ができないだろうか。各観光スポットに写真を撮るベストポジションをつくり、観光客は様々な場所で写真を撮る。そして、そのデータはクラウド上につながっており、泊まっている間に、またで食事をして、ホテルや駅、観光案内所などで一冊の本に仕上がる。帰りの電車や車内、飛行機などで思い出を語り合うことができ、新鮮な思い出をストレスフリーで持ち帰ることができる。



おわりに

観光とデジタルのコラボレーションは、大きな可能性があると思う。誰もが簡単にまちのことをより深く知ることができたり、新たな体験を生むことができるツールであることを再認識した。こういったツールを使って、まち独自の魅力向上ができればと思う。

